

豆 狸 の 寝 言

副会長 三原幸二

私は人一倍旅行が好きである。旅行に行く数日前から胸がワクワクする。そして、旅行中弁当を買う時にそのワクワクは最高潮に達するのである。

しかし、そのワクワクが最近はありませんになってきた。まず、弁当を開き箸を割る。その割り箸が竹製ならガツカリで、見た目がきれいだが、そのためにはかなりの量の漂白剤を使用しているらしい。

ここで食欲が削がれる。続いてカリフラワー。産地が何処だろうと気に掛かる。鶏肉、鳥インフルエンザは大丈夫だろうか。そしてメインの牛肉、BSEの検査を通過してきたのだろうか…。最近、弁当を開くたびにこのような事が頭をかすめて仕方がない。味わうどころではないのだ。

少々割高になっても国産の安全な食材だけを使った弁当を望むのは今の世の中贅沢すぎることなのだろうか。美味しさも、安さも必要なことではあるが、安心して窓に映る景色を見ながらワクワクした気持ちで弁



当を食べたいと望むのは私だけではないはずである。

そう考えると、安心して食べられるのは家庭で作られる料理なのかもしれない。昔は外食をすることが贅沢のように考えられていたが、このように心配しなければならぬ食事が氾濫している時代、家庭で作ってくれる料理が一番贅沢なのかもしれない。

東京行きの新幹線の中でそんなことを考えた次第である。

(弁) 2004 年執筆